

仏教の未来に挑戦する情報誌

フリースタイルな 僧侶たちの フリーマガジン

2010/8・9
Vol.7
Japan

since 2009.8

Webサイトもチェック!!

- ▶ メールマガジンやPodCastの配信などWeb独自のコンテンツが満載!!
- ▶ アンケートに答えてオフィシャルスポンサー・薫寿堂様よりお香のプレゼントをゲット!!

フリースタイル 僧侶 検索

<http://freemonk.net>

イベント・クローズアップ!!

- ▶ 9/4(Sat) 円融寺写経コン (東京・円融寺)
- ▶ 9/11(Sat) フリスト1周年記念トークライブ (京都・BONZEクラブ)
- ▶ 9/25(Sat) お彼岸ライブ2010 (東京・梅窓院)
- ▶ 9/26(Sun) 彼岸法要+落語+インド古典音楽 (京都・西方寺)
- ▶ 11/26(fri)~12/4(Sat) 21年目のインド出逢いの旅

column

伝統と革新のあいだ

—— フリースタイルな僧侶たち・池口龍法代表

interview

伝統を大切にしながら、新しいものを生み出す

—— 薫寿堂・福永稔代表取締役

recipe

ヘルシー精進レシピ・アンダルシア風ガスパチョ

伝統と革新のあいだ

～私たちが「仏教」×「フリースタイル」の先に目指すものとは～

伝統を背負うゆえの苦しみ

もし仮に私が僧侶の道を歩むのではなく、宗教と全くゆかりのない人生を送っていたら、近しい人が亡くなり見送らねばならないときに、どのような行動をとるだろうか。葬儀を故人の意に沿うように執り行い、別離の悲しみを和らげたいと願うときには、お寺に依頼するよりもまず、病院と繋がりのある葬儀社を頼ることになったと思う。

このような「お寺離れ」を危惧するのは、私だけではない。特に、若手僧侶たちが近年危機意識を抱いてブログやツイッターでナマの声をさかんに発信しているのは、ひとつの現れだろう。だがこの努力はなかなか根付かず、お寺社会全体としてはアナログに留まる。これを「怠慢だ」と批判することは簡単である。しかし私たちが見落としてはならないのは、たとえ参詣者が訪れずとも日々朝な夕なに本堂で繰り返し経典を読むのを厭わないうような敬虔な僧侶でさえ、対外的に仏教をPRする努力を敬遠しがちなのはなぜだろうか、ということである。

お寺の経営危機が叫ばれる昨今だが、ビジネスライクな手法に従って徹底的なコストカットを果たし、目先のお寺の経営基盤を安定させることは、実は簡単である。バランスシートの見直しなどテクニカルな部分にメスを入れれば良いのだから。しかし、それはおそらく結果として私たちの心をますます荒廃させ、かえって仏教の精神に反する。

良き僧侶たちは、世俗とは一線を画すような仏教の精神によって生きる。だが、

伝統的な精神を継承しながら目の前の新しい現実と向き合うのは簡単ではないから、もどかしく歯がゆい思いを抱くことになる。

2つの理想のはざま

天台宗の最澄や真言宗の空海のようなカリスマ的な僧侶は、長年に及ぶ修行の末にそれぞれの時代のニーズに合った革新的な教義を説き、新しい宗派を生み出して仏教史を新たな方向へ導いてきた。教えの根本が不変であるのが1つの真理なら、人の心や社会のあり方が時とともに移ろいゆくのにしたがって教えの適切な説き方も変化する、というのはもう一つの真理である。

このことを「頭で理解」するのはたやすいが、「仏教の教えに忠実」でありながら、同時に「現代に生きる仏教」を模索するのは、実に労苦が絶えない。継承されてきた奥深い教えに習熟するには相応の時間がかかるうえに、菩提樹のもとでお釈迦様が瞑想の末に創始した仏教はきわめて内面的である。これを科学的な思考を好む時代にわかりやすく伝えるのは難しく、しかも伝統を時流に沿って説き直すことはしばしば反発を招く。時代の変化に適応したつもりで「良かれ」と思って行なったことが「異端」と審判されかねないことは、歴史がよく示している。

しかし、伝統教団の抱える事情がどうであるにせよ、私たちが生きているのは、刺激的な情報が新聞やWebなどのメディアに氾濫し、それが世論を形成する



時代である。勤行や学問に黙々と励んで教えを体得していくことが大切なのは昔もいまも変わらないが、それだけでは仏法が黙殺されかねない。山奥で人知れず厳しい修行を重ねた徳のある僧侶ではなく、ビジネスライクな営利団体がクローズアップされて生き残り、結果として一生懸命頑張っているお寺や僧侶が消えて行くのは慙愧(さんき)に耐えない。

守るべきものを守るためには積極的かつ組織的な広報活動が避けられない時勢である。私たちがフリースタイルな僧侶たち(略称フリスト)を平成21年8月に発足させ、フリーマガジンを発行して出逢いを創造し続けているのもこのような時代認識に基づく。

クリエイターと協働する理由

ところで、社会がきわめて専門化したことも現代の1つの特徴だ。かつては、お寺の住職は学識ある教養人だったし、地域の相談役として様々な役割を担っていたが、いまもその通りにあり続けることは不可能である。義務教育はすべての国民に等しく認められているし、昔は家庭内のいざこざも住職が仲介していたが、現代は弁護士がその役割を担う。さらに、「死」の問題に深く関わろうとターミナルケアを志すなら病院と協働することになり、巨大な教団組織よりも身軽なNPO団体の方が実践的である。

しかし、そのような時代状況であるにもかかわらず、お寺が昔は「こともたちの遊び場」であり「地域共同体の中心」であったことから、世の中の人々から「もう一度あの頃のように」という声を近年聞

くのはただ嬉し。精神的に追い詰められたり理不尽な思いをしたときに、人々はやはり宗教に希望を求める。実際、私はこの1年間に、割り切れない現実にはさいなまされた人たちからいくつもの相談をお受けした。心理カウンセラー



に開放し、經典に豊かに説かれた教えを「よりどころ」にして、何はともあれ、とりあえず「人々の悩みを聞く」こと。その上で最終的な解決は専門家のカウンセラーや医者に委ねたり、協働していくというのが、いまらしいお寺のあり方なのだろう。

お寺の広報活動についても事情は似ている。フリストの活動はフリーマガジンやWebサイトを制作することからスタートしたが、これもまたライターやカメラマンなど専門家のクリエイターたちの協力なくしてはありえなかった。それは技術的な面だけではない。先に述べたように、長年の伝統を背負った僧侶たちは本堂で仏様の前に額づくことにはいよいよ真摯であつても、華々しい広報活動の最前線に立つのはどうも似合わない。「祖師の教えに忠実に」「現代に生きる仏教を」の2つの理想を掲げながらも、特に後者については僧侶以外のクリエイターたちと協働するというスタンスをとるときに、僧侶はいっそう僧侶らしく生きられる。

フリースタイルのその先に

としての素養もなければ若くて人生経験もたかが知れた私だが、とりあえず話を伺うと、「病院で処方される薬も有難いけれども、お坊さんはとにかく話を聞いてくれるから嬉しい」とおっしゃって頂

いた。思うに、最優先すべきは、お寺を地域

があるから、完全な「フリースタイル」はありえず、その軸を生き方の中心にしなから現代との距離感を模索することになる。一方で、世間もまた、かつてのように「開放されたお寺」を望み、「坐禅」「写経」「法話」といった古くからの仏教習俗をときに楽しみながら、いまらしいお寺との交わりをどこかもどかしく模索しているように思われる。

そのような事情がベースにあるから、「フリースタイル」を高々と掲げて様々な試みを推し進めていくスタンスがちようどいいのではない。1年間活動を続けてきたなかで協働するメンバーが少しずつ増えてきてくれたが、理念に共感してくれる人は、むしろスタイックなまでに仏教を愛している人ばかりだ。

私たちの活動は、魅力的な仏教の叡智を断片的にただ浪費してウケを狙うものではない。仏教の原理原則に基づき、もどかしい思いをしながらも現実から目をそらさずに地道に続けてゆくその果てに、モラルなき資本主義の時代に仏教が活力を取り戻し蘇つてくると、私たちは信じて行動しているのです。

(フリースタイルな僧侶たち

代表 池口龍法)

※ 1周年記念のトークイベント&交流会で、フリースタイルな僧侶たちと

楽しく語り合います！詳しくは本誌7ページおよびホームページをご覧ください。



福永稔代表取締役(右)と淡路島の薫寿堂本社・工場前にて

このほど、淡路島のお香づくりの老舗薫寿堂様が、フリースタイルな僧侶たち(略称フリスト)プロジェクトに対して、一般企業初のオフィシャルスポンサーになって頂くことが正式に決定致しました。同社は、本物志向の手作りの製法にこだわりの工場見学ができるように一般人にも開放(事前に受付)や、オリジナルな香りが楽しめる「お香づくり教室」を開き、好評を博しています。

今回、同社の福永代表取締役社長と、フリストの池口代表が「伝統と進化」そして「地域社会活性化について」などを、熱く語り合いました。是非、ご覧ください。

池口「ねだらず、驕らず」という関係性を築けるスポンサーは、私たちのような活動には本当に有難い存在です。このような縁を頂いたことに、まずは感謝を

「伝統を大切にしながら、新しいものを生み出す」

——薫寿堂・福永稔代表取締役(71歳)

「私たちの活動も、まさに同じスタンスです」

——フリースタイルな僧侶たち・池口龍法代表(29歳)



工場見学では薫寿堂ならではのお線香の製法の解説付き



10種類のフレーバーから池口は「ゆず」を選んでオリジナルのお香づくり

福永「いえいえ。若手のご僧侶が本気で新しい風を起こしているご耳にし、以前から気になっておりましてので、池口さんにお会いできたことは、こちらこそ良いご縁だと思っています」

池口「では、そもそも淡路島と、お香の関係を知りたいのですが」

福永「『日本書紀』によると推古天皇3年(595)の夏、沈香木が淡路島に漂着し、そこから日本のお香の歴史が始まったといわれています。その後、淡路島での線香づくりが始まったのは嘉永3年(1850)。淡路島は風が厳しく、冬場は主要産業である『漁』ができない。その間に、何らかの産業をという中で、田中辰三さんが堺で線香製造の技法を学び、原料の杉葉粉を阿波より仕入れてから製造が始まりました。現在、日本の線香のシェアの約7割が淡路島産です」

時代の移り変わりと、仏教の変遷。そして現代向けのお香の開発

福永「古い考えかもしれませんが、私たちの想いとしては先祖があるから、いまがあると考えています。お香を通じ、それを伝えていきたい。この部分は私たちが譲れない軸ですね。そのうえで、マンションなどの密閉空間にも対応した匂いのこもらない、煙も少ないお香の開発など、時流に沿ったものも開発しています。会社は私で4代目になりますが、先代の時の製法でつくられたお香の売り上げは、全体的に見ていまは1割くらい。本質を大切にしながら、お客様の要望に応じた商品を開発することが大切だと思っ

ています」

池口「私たちのフリストも同じですね。本質を大切にしながら、時流に沿った教えを説いていくというのが私たちのスタンスです。例えば、最近、お葬式をあげずに『お寺に骨を納められたらそれでいい』という要望が増えてきていますね。社会が多様化する中で、お葬式のあり方も変化するのでしようが、お葬式がただ儀式として考えられている風潮は残念です。遺族のグリーフケアなどの役割もあることを知ってもらえるように、お坊さんたちは努力していかねばなりません」

福永「若い人の中で、そういう志を持っておられるお坊さんがおられるのは、私たちとしても応援していきたいですね」

地域活性化のためのお香づくり教室、寺院のあり方

池口「お香教室は、お香づくりの楽しさを多くの人に知ってもらおうとともに、地域活性化の意味もあると伺いました」

福永「観光客に対して、雨の日でも屋内で楽しめる名所として、知名度が上がってきていて、年間に約5万人が来られます。今後さらに発展させていきたいと思っていますので、期待してください」

池口「私たちもお寺を通じた地域活性化を目指しているのので、目的を共有できると感じています」

福永「やはり『おかげさま』の気持ちが大変。地域の中で生き、地域に貢献していく。それがあべき姿ではないでしょうか」

最後に、一言

福永「仏教と仏教に使用される用具はともに大切であり、宗教者と将来的にはしっかりと手を携えた活動をしていきたいと考えています。今回の提携は、その先鞭となりうるものと捉えています」

池口「一般の人が、仏教に接する機会がお葬式の時だけになって久しくなっています。もしも世の中の人々全員が『仏教など必要ない』と考えているのであれば、仏教が消えていくのも仕方ないことかもしれない。しかし現実には、仏教に救いを求める人は多い。今回立ち上げたプロジェクトは新聞やテレビなど多くのメディアで取り上げて頂きました。また、出版不況の中でも、仏教に関連する書籍は好調な売れ行きです」

福永「池口「伝統を守り、新しい時代に応じたことを成し遂げていくのが現世世代の仕事ですね。そして、それを多くの人に知ってもらうことが必要。そのため、連携して新しい試みをしていけたら、と」

株式会社薫寿堂(くんじゅどう)

■営業本部
〒657-0835 兵庫県神戸市灘区灘北通9-1-17
Tel (078)802-0400 / Fax (078)802-0828
■本社・工場
〒656-1521 兵庫県淡路市多賀1255-1
Tel (0799)85-1301 / Fax (0799)85-2262

※工場見学、お香づくり体験などについてのお問い合わせをお待ちしています。
※薫寿堂様からお香のプレゼント!!詳しくはフリストのWebサイトをご覧ください。

野菜、ビネガー、オリーブオイルと三拍子揃って、夏の体をしゃきっとさせてくれる賢いスープ。飲むサラダという異名のとおり、火を使わずに作るので、野菜のビタミンを壊さずしっかりいただけます。

アンダルシア風ガスパチョ

材料(4人分)

トマト(できれば完熟) 500g
赤パプリカ 1個
ピーマン 2個
きゅうり 1本
セロリ 10cm
フランスパン 1切れ(5cm程)

オリーブオイル 大5
白ワインビネガー 大5
冷水 1カップ
クミン(粉末) 少々
パプリカ(粉末) 少々
塩 少々



1 トマト、赤パプリカ、ピーマン、きゅうりは種を除き、セロリは筋をとって、すべて乱切り。全部をミキサーかフードプロセッサーにかけるか、深めの鍋かボウルに入れ、ブレンダーにかける。



2 ちぎったフランスパン、白ワインビネガー、パプリカ(粉末)、冷水を加える。味を見ながらクミン(粉末)を加える。

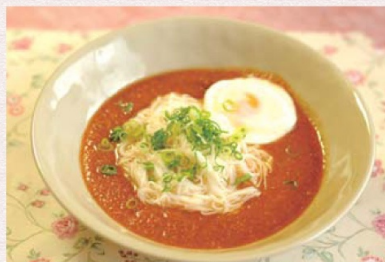


3 さらに攪拌する。2がよく混ざったら、オリーブオイルを少しずつ加えながらとろんと乳化させる。塩で味をととのえる。

4 3をしっかりと冷蔵庫で冷やす。同じように冷やした器でサーブする。

tips おもてなしの時は、赤パプリカを刻んだものやクルトンを浮かべるとかわいらしい。また、冷製にした極細のパスタ(カッペリーニ)のソースやお素麺のつゆとしても重宝します。

写真は池口家のある休日のランチ。ガスパチョを出汁と醤油で調味してお素麺といただきました。精進からは外れてしましますが、温泉卵と刻みネギを添えています。どうしても栄養が偏りがちになるお素麺メニューですが、ガスパチョつゆなら野菜たっぷり、ビネガーもとれて夏にぴったりです。



written by
Ayaka Ireguchi
(料理愛好家)

9/4
sat

東京・目黒

円融寺写経コン

写経に興味のある方はいませんか?静かに筆を取り、じっくりと自分と向き合う写経。忙しい毎日の中での癒しとして、また最近脳のはり活性化効果なども注目を浴びており、初心者でも気軽に体験することができます。

そして今回は特別企画!フリスタとそれいけ縁結び”寺社コン.COM”との共同企画です。円融寺の写経会に参加し、副住職を囲んでみんなでお話をします。そしてうちとけたところで懇親会を行います。なお、懇親会は目黒駅近辺に移動して行う予定です。

参加条件は

- ・独身で彼氏、彼女がいないこと
- ・まじめな出会いを意識していること
- ・お寺・神社が好きであること

同じ趣味の人が集まりますので、初対面でも毎回とても話しやすい会になっています。逆に言えば、お寺や神社に全く興味がないという方のお申し込みはご遠慮ください。お寺や神社が好きといても知識は特に必要なく、興味さえあれば大丈夫です。

また写経道具は全てお寺に用意されていますので、手ぶらで参加可能です。

ご興味のある方の参加をお待ちしています。

日時: 平成22年9月4日(土)13時30分

集合: 東急目黒線「西小山」駅

会費: 3,000円(縁)。その他、諸費用は各自。

懇親会は4,000円前後。

参加人数: 男性10人・女性10人位を予定しています。

■お申し込み・お問い合わせ

それいけ縁結び”寺社コン.COM”

<http://jisyacon.com/entry.html> (申し込みフォーム)

[holy@syukubo.com](http://syukubo.com) (お問い合わせ窓口)

仏教 体感

11/26 fri
S
12/4 sat

THE BONZE クラブ企画 21年目のインド 出逢いの旅

●お釈迦様の聖地のある町や村は2,500年の時を越えて息づく昔ながらの世界。アジアの仏教徒だけではなく欧米からも巡礼者が集うブダガヤ大精堂、法華経が説かれたラジギール、はじめて説法をされた地サルナート、お生まれの地ルンビニ園、お涅槃の地クシナガラを訪ねます。

●皆様の善意「BONZEの井戸第1号」が完成!!お悟りの地ブダガヤの近くにあるカタロワ村を訪ねます。

●ベナレスではガンジス河の他、ガンダーラ仏のある博物館見学も。

●サービスに定評あるシンガポール航空利用。関西空港発着(中部/福岡発着可)・添乗員同行。各地デラックス・クラスのホテル利用。

旅行期間: 平成22年11月26日(金)~12月4日(土)

旅行代金: 298,000円

(上記旅行代金の他に、燃油特別付加運賃、空港税、インド査証料、代行料など約5万円が必要になります。)

募集人員: 20名様限定

■お申し込み・お問い合わせ

THE BONZE クラブ 杉若恵亮

〒603-8174 京都市北区紫野下柳町47-1

Tel / Fax (075)432-8716

<http://bonzeclub.net>

~まずはお問い合わせください~

9/11
sat

京都・北区

フリスタ1周年記念トークライブ

フリスタを1年間応援してくれて有難う!!その感謝を込めて、代表の池口をはじめフリスタ・リーダーズたちが仏教を愛する想いを語るトークライブ、そして、その後は楽しくお酒を飲みながらフリートーク。

出演者などの詳細が決まり次第、「フリースタイルな僧侶たち」ホームページにアップしていきます。

日時: 平成22年9月11日(土)17時開始~20時終了予定

会場: THE BONZE クラブ「堀北庵」

〒603-8174 京都府京都市北区紫野下柳町47-1

(京都市営地下鉄「北大路」駅下車徒歩10分)

参加費: 1,000円(フリスタ会員は無料)

定員: 20名

■お申し込み・お問い合わせ

フリースタイルな僧侶たち 代表 池口龍法

Tel (090)5896-6478 / senrenja@gmail.com

※「フリースタイルな僧侶たち」ホームページからも申し込みできます。

9/25
sat

東京・青山

お彼岸ライブ2010

東京の青山外苑前にございます浄土宗のお寺・梅窓院では、秋のお彼岸に合わせて、若い方にもお寺を身近に感じて欲しいという思いから多数のアーティストの方々のご協力を得て、「お彼岸ライブ」を開催しています。平成19年の春彼岸から始まったこのイベントも、今回で6回目を迎えることになりました。

最近ではライブの他にも、その合間に楽しめる染色教室やお焼きなど軽食の販売も行っています。

日時: 平成22年9月25日(土)

14時開場 15時開演 17時30分終演予定

※時間は変更になる場合があります

会場: 浄土宗梅窓院 祖師堂

〒107-0062 東京都港区南青山2丁目26-38

(地下鉄銀座線「外苑前」駅下車1a出口徒歩1分)

入場料: 檀信徒 無料 / 一般 お布施(お気持ち)

出演者: 高田なみ / アラゲホンジ / KIDS Hi-5 / Soothe 他

■お申し込み・お問い合わせ

浄土宗梅窓院 Tel.03-3404-8588

9/26
sun

京都・太秦

西方寺彼岸結願法要

落語・ジャータカ物語

インド古典音楽と舞踊

「おはよう朝日土曜日です」でもお馴染み!!フリスタ・リーダーズの1人で仏教大好きな落語家・露の団娘(つゆのまるこ)さんがお釈迦様の前世話(ジャータカ)などを楽しく語ります!

日時: 平成22年9月26日(日)13時

法要~カタックダンス~落語~インド音楽~落語~15時30分終了予定

出演: 露の団娘 / インド音楽・舞踏団「NAMASTE!」

志納金: 2,000円

会場: 西山浄土宗西方寺

〒616-8218 京都府京都市右京区常盤出口町1

(京都市バス75・91・93系統バス停「太秦映画村道」下車徒歩5分)

■お申し込み・お問い合わせ

西山浄土宗西方寺 Tel (075)861-3415 / mumuhito@hotmail.com

<http://www.15.plala.or.jp/miterasaihou/>

お坊さん×スクーター!?

毎号、表紙写真には特別の意気込みをもって撮影に臨むフリスタ編集部。読者の反応が思惑のとおりではないこともありますが、そういう時にこそ仏教感のズレを体感できるのです。

読者の地域によっても反応は様々。今号はスクーターで颯爽と走るお坊さん(中島浩彰さん)が表紙を飾りましたが、これは関西では「お盆の風物詩」。この風景で「今年も暑いな」と関西人たち。しかし関東では「お坊さん×スクーター」での檀家参りは目慣れず、関東人には「めずらしい」と思われたのではないだろうか。

あなたは本誌を手にとったとき、どの

ように感じましたか?

2年目突入!!

フリスタを発足してようやく1年! いままで応援してくれた皆さま、どうも有難うございました。立ち上げて早々の頃は、遠路を青春18切符で移動して取材に臨んだ辛い時期もありましたが、少しずつ軌道に乗りつつある感触が得られています。

本誌のデザインも1周年を記念して一新!表紙には「JAPAN」を入れ直した。今の時点で、本誌の海外版が存在しているわけはありません。しかし、国際化した現代、今後はそのような展開も視野に入れて仏教を盛り上げてい

フリスタ・クラブ会員募集中!!

私たちの活動に共感し、応援して下さいる人を大募集中!!
「サポーターズ・クラブ」と「リーダーズ・クラブ」があります。

■フリスタ・サポーターズ・クラブ

対象者 フリスタを応援していただける方

協賛年会費 5千円

※ フリスタ・サポーターズの皆様には、年間6回発行予定の本誌をお届けします。また、フリスタ主催の各種イベントにおいて、優待いたします。

■フリスタ・リーダーズ・クラブ

対象者 仏教に関する資格や知識を持ち、フリスタの指導者として活動していただける方

協賛年会費 1万円

※ フリスタ・リーダーズの皆様は、フリスタの指導者として、各種活動に参加していただけます。また、フリスタ・サポーターズ同様のサービスも含まれています。

お申し込み、お問い合わせは、フリースタイルな僧侶たち編集部(電話番号などは下記)まで。ホームページからもお申し込みいただけます。

協賛の報告

本誌発行にあたり、以下の皆様よりご協賛をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

きたい——そんな壮大な夢を掲げて、「JAPAN」と刻みました。

ワークを軽く、スピード感を持って頑張っていきます。どうぞよろしくお願い致します。

- 安心院
(京都府八幡市・浄土宗)
安楽寺
(京都府南丹市・浄土宗)
石尾山弘法寺
(大阪府和泉市・真言宗)
延命寺
(大阪府堺市・浄土宗)
円融寺
(東京都目黒区・天台宗)
教伝寺
(京都府船井郡・浄土宗)
九品寺
(京都府京都市南区・浄土宗)
光明院・田中医院
(京都府京都市中京区・浄土宗)
光明寺
(滋賀県草津市・真宗興正派)
西明寺
(兵庫県尼崎市・浄土宗)
浄観寺
(滋賀県甲賀市・浄土宗)
浄元寺
(兵庫県尼崎市・浄土真宗本願寺派)
正善寺
(兵庫県伊丹市・浄土宗)
勝樂寺
(東京都町田市・浄土宗)
信覚寺
(福岡県朝倉郡・浄土真宗本願寺派)
- 瑞聖寺
(東京都港区)
崇福寺
(滋賀県甲賀市・浄土宗)
大圓寺
(東京都目黒区・天台宗)
臺鏡寺
(大阪府枚方市・浄土宗)
檀王法林寺
(京都府京都市左京区・浄土宗)
念佛寺
(三重県伊賀市・浄土宗)
法善寺
(大阪府大阪市・浄土宗)
法然院
(京都府京都市左京区)
薬師院
(大阪府岸和田市・真言宗)
和田寺
(和歌山県田辺市・浄土宗)
株式会社 薫寿堂
(兵庫県神戸市)
- ※ 五十音順に表示しています。
※ 協賛は随時受け付けています。

フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン

平成22年8月1日発行 第7号

発行元 フリースタイルな僧侶たち 編集部

〒661-0982 尼崎市食満6-11-15

TEL 090-5896-6478(池口) / 070-5658-4922(仲西)

info@freemonk.net

http://freemonk.net

※ 本誌のコンテンツを無断で転載することを固く禁じます。

表紙写真

題字

DTP&デザイン

ライティング・

ディレクション

企画・制作・編集

総指揮

Special Thanks

掛川雅也(カメラマン・フリスタ専属)

しらたきなべお

池口龍法 仲西俊光

仲西俊光

池口龍法 仲西俊光

池口龍法

池口龍法

中島浩彰